

今日のトピック

2016年のインド経済の見通し

経済成長率は緩やかに加速

ポイント1

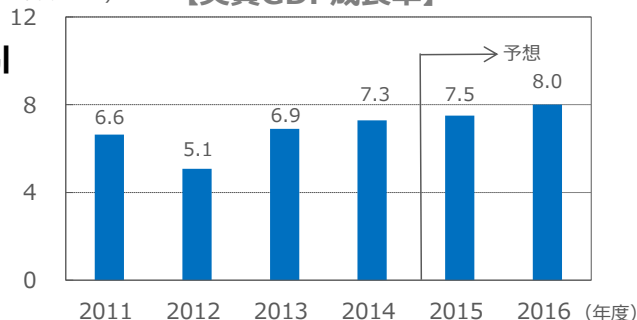
成長率は緩やかに加速

金融緩和や構造改革で内需がけん引

- 実質GDP成長率は、2016年度（16年4月～17年3月）も緩やかに加速する見込みです。インド準備銀行（RBI、中央銀行）によるこれまでの利下げ（2015年合計1.25%）や、モディ政権が進める経済構造改革（モディノミクス）などが下支えとなり、内需が景気をけん引する見込みです。
- インドは、GDPに占める輸出の割合が15%程度と比較的低く、中国をはじめとする新興国の景気減速の影響は限定的と見られます。

(前年度比、%)

【実質GDP成長率】



(注) 2015年度、2016年度は三井住友アセットマネジメントの予想。
(出所) 国際通貨基金 (IMF) のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

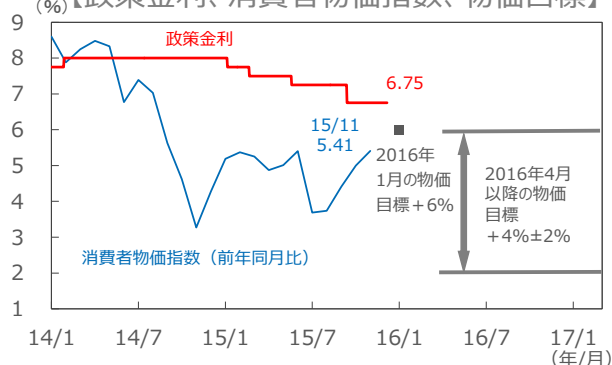
ポイント2

RBIは金融緩和スタンス

当面は物価動向を慎重に見極め

- 消費者物価上昇率は、原油価格の下落や野菜など食品価格の落ち着きから2015年7月に前年同月比+3.69%まで低下した後、上昇しています。RBIは、今後見込まれる公務員給与や年金の大幅引き上げ、野菜価格の値上がりなどによる物価押し上げを警戒しています。
- RBIは、物価が安定する環境が整えば、利下げするスタンスです。ただし、物価上昇率を2017年3月に年+5%に抑えたいとしており、当面は現行の政策を維持し、物価動向を見極めると見られます。

【政策金利、消費者物価指数、物価目標】



(注) 政策金利は2014年1月1日～2015年12月24日。消費者物価指数は2014年1月～2015年11月。

(出所) Bloomberg L.P.、インド準備銀行のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開

モディノミクスは一部で足踏みも、今後景気への効果が期待される

- 12月23日まで開催されていた冬季国会では、破産法が改正され、企業活動の環境整備が進みました。ただし、モディノミクスの目玉の物品・サービス税（GST）法案は成立せず、政府の目指す2016年4月のスタートはほぼ不可能になりました。
- GST法案は、他党も基本的な考えでは一致しており、後ずれしながらも最終的には成立する見込みです。モディ首相が2014年5月に就任以来、外国企業による投資は着実に増えており、モディノミクスの景気への効果は今後も期待できそうです。

ここも チェック!

2015年 12月 4日 「ビジネス環境」改善で成長力引き上げ（インド）

2015年 12月 2日 インドの金融政策（2015年12月）

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。